

3-4

主題	簡単ラップ療法で褥瘡も傷も改善！！
----	-------------------

褥瘡及び創傷改善	副題	傷に消毒液は使用しない、ガーゼもいらない！！
新処置法		

研究期間	9ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム 第二清風園

発表者：片淵 佐月			
共同研究者：看護課・介護課・褥瘡対策委員			
電 話	042-736-6906	メール	seifu2@san-ikukai.or.jp
FAX	042-736-6903	URL	www.san-ikukai.or.jp

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	社会福祉法人賛育会の特別養護老人ホームとして、1997年4月町田市の支援のもと設立。特別養護老人ホーム80名、短期入所施設50名、在宅サービスセンター50名、地域包括支援センター、居宅介護支援事業の高齢者総合福祉施設である。
------------------------------	--

《研究前の状況と課題》

1. 事例 S 様女性 95 歳 特養入所者
- 2008 年 6 月軽度の褥瘡発生、外科で 2 度の褥瘡手術（皮弁術）施行。2 回ともに手術結果は良い状態ではなく皮膚科医指示の処置を 1 年 5 ヶ月継続するが時折感染もあり改善なく経過する。

＜処置内容＞

- ①生理食塩水で創を洗浄（感染時イソジン消毒）
- ②軟膏塗布
- ③ガーゼ貼付

（既存のエアマット使用、栄養補助食品提供）

看護課、褥瘡対策委員会では「どうか改善に向かうことが出来ないか」と検討していた。

2. 施設全体の褥瘡発生が減少しない また改善が遅い。（褥瘡者月平均3名発生）

上記の通り看護課、褥瘡対策委員会では褥瘡に対する取り組みについての課題があった。

《研究の目標と期待する成果》

- 1. 研修などで褥瘡認定医の存在を知り事例 S 様担当医の検討を行う。
- 2. 褥瘡認定医の診察を受けることにより褥瘡の処置方法などが変更され褥瘡が改善傾向となることが考えられる。
- 3. 施設で高機能褥瘡治療器具導入（高機能エアマット、褥瘡予防マット、クッション）により褥瘡改善が早まり、発生の減少が期待できる。

《具体的な取り組みの内容》

1. 事例 S 様

2009 年 11 月非常勤看護師紹介により褥瘡認定医の診察と褥瘡手術（デブリードマン）を受ける。退院後創部は大きいですが、整い褥瘡は良い状態となる。

＜手術後の褥瘡処置内容＞（担当医指示）

- ① 褥瘡部と周囲を水道水(微温湯)で洗浄
- ② 食品用サランラップ(または穴あきビニール)を当てる。
- ③その上にパットを当てる。
(施設で高機能エアマットが導入され使用する)

2. 今回事例 S 様担当医の推奨する処置方法は褥瘡のみだけではなく一般創傷処置にも適応できることを担当医師より学ぶ。

「傷には消毒をしない」「ガーゼは使用しない」
処置法を施設内でも取り入れた。

＜創傷新処置方法＞

- ① 創は水道水で洗浄
- ② ガーゼの代用にはラップにワセリン軟膏を塗った「ワセリンラップ」を作り使用する。

《取り組みの結果と評価》

1. 事例 S 様ラップ療法 10 日目より褥瘡が良い状態となり改善に向かう。
2. 以前の処置方法に比べ、ラップ療法では施設利用者の褥瘡改善も早まった。
(現在事例 S 様を除き褥瘡者 0 名)
3. ラップ療法は簡単で処置所要時間が短時間なため夜間排泄汚染時の交換も簡単に実施できた。
4. ラップ療法と高機能エアマットレス、褥瘡用 13cm 予防マットレスを併用し褥瘡の改善が早まり、発生が減少した。
5. 「創傷新処置法」で明らかに創傷の改善が早まり化膿することもなかった。

＜実例＞

- ① 下腿にジクジクした傷があり消毒、軟膏、ガーゼ処置を継続し長期改善されない方が新処置法では短期間で改善され再発もなくなった。
- ② 高齢者に多く見られる皮下出血と表皮剥離を繰り返す方にも効果が得られた。

＜まとめ＞

実例からも新処置法に確実性があることが実証された。また消毒液、ガーゼ、軟膏などコスト削減となった。

《参考文献》

ラップ療法推奨医師一町田胃腸病院寺本忠医師

《提案と発信》

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。